

告「詳報」

第 二

茲「詳報」又來錄へ精神動を承へてらるるを敬慕する一節に及ぶを
 承へて
 其の當面の端である此直に資本増殖の事を知れり推察して其
 外、我々の貴社の對し聯合の建議の點をうらや言するものあり
 貴社の公端として我々の建議の點を二并置資本家を承るの
 辭もこの原の了解を承る事難しとお察の儀に於て見たり。
 了解を承る事難しとお察の儀に於て見たり。



473
 390

第 二 號 藤澤 穆
 大正十一年六月三日

協調會大阪支所長 藤澤 穆

常務理事 藤澤 穆

松方 弘 會見 額本 報生 大隈 滄生

時日 六月九日 午後七時 十一月十一日

場所 漢川 飯業 館

事情 神六 造船 船 組 長

日付 本 日 新 一

入押 約 十 百 元

入押 約 十 百 元